

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	歴史学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≪KUGS1.5に对应≫)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない個々の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(≪KUGS1.2.5に对应≫)</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≪KUGS3に对应≫)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異議を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≪KUGS4に对应≫)</p>	<p>歴史学プログラムでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、履修モデルを参考としつつ、それぞれの志望に応じ選択した分野・地域を中心とする歴史学的専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】 DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <p>1. 学士課程4年間を通して、KUGSに対応したGS科目と導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択すること。外語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≪DP1≫)</p> <p>2. 1年次より人間社会学域(GS科目)と人文学基礎科目(履修制)。前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概論、異文化理解、異文化概論、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文学の基礎研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≪DP1.2≫)</p> <p>3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえて2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≪DP4≫)</p> <p>4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実験科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向性の授業を進めるとして、専門知識の習得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≪DP4.4≫)</p> <p>5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試験では、自己の所収の原稿に加えて批評・異議に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムのOP】 プログラム必修科目である1年次の歴史学入門、および履修が推奨される人文学基礎科目(グローバル・ヒストリー、歴史学と現在1・2)の修得を通じて、歴史学全般の基礎知識や方法論を学ぶ。そして各自の選択する履修モデルを参考に、2年次、または3年次から実習科目を履修し、歴史研究における論文の読み方、史料の分析と読解方法を実践的に学習する。このほか、履修モデルでの推奨、および学生各自の関心に応じて基礎講義、発展講義、演習科目を選択し、専門知識を習得する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を経験して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることによって、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間・空間の異なる世界を歴史的対象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブの論考にまとめることができる。</p> <p>学問分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に開かれた複眼的な見方を養える。</p>

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学習科目	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
21301	歴史学入門	歴史を歴史学として見る眼を養うとともに、特定テーマに関してグループごとの調査・発表を行う。	1				*
41582	日本古代中世史概観A1	古墳時代から平安時代に至るまでの、国家・社会・文化に関する古代史の基礎知識を身につける。	1~4	*		*	
41583	日本古代中世史概観A2	古墳時代から平安時代に至るまでの、国家・社会・文化に関する古代史の基礎知識を身につける。	1~4		*	*	
41584	日本古代中世史概観B1	中世の国家体制である権門体制を理解する。あわせて様々な社会集団の特質を学ぶ。	1~4	*			
41585	日本古代中世史概観B2	中世の宗教秩序である鎮座体制を理解する。そのような秩序のもとで活動する多様な宗教者について学ぶ。	1~4	*			
41586	日本近世近代史概観A1	近世後期から幕末期の政治・社会の動きを歴史的に理解する。	1~4	*		*	
41587	日本近世近代史概観A2	近世後期から幕末期の政治・社会の動きを歴史的に理解する。	1~4		*	*	
41588	日本近世近代史概観B1	金沢をはじめとする地方都市の近現代史に関する理解を深める。	1~4	*		*	
41589	日本近世近代史概観B2	金沢をはじめとする地方都市の近現代史に関する理解を深める。	1~4		*	*	
41590	日本古代史特殊講義A	古代国家の支配体制について、唐王朝との比較検討を行いつつ、その全体像と特色を理解する。	2~4	*		*	
41581	日本古代史特殊講義B	古代国家の支配体制について、唐王朝との比較検討を行いつつ、その全体像と特色を理解する。	2~4		*	*	
41582	奈良平安時代史特殊講義A	古代社会の実態、および文化・宗教の経緯について、東アジアの各地域と比較しつつ、その特質を理解する。	2~4	*		*	
41583	奈良平安時代史特殊講義B	古代社会の実態、および文化・宗教の経緯について、東アジアの各地域と比較しつつ、その特質を理解する。	2~4		*	*	
41584	日本中世地域史特殊講義A	守護大名・内氏に關し、幕府や朝廷・明との関係を理解する。	2~4	*		*	
41585	日本中世地域史特殊講義B	守護大名・内氏に關し、領地支配と宗教の関係を理解する。	2~4		*	*	
41586	日本中世寺院史特殊講義A	中世における宗教と社会の関係を理解する。	2~4	*		*	
41587	日本中世寺院史特殊講義B	中世における聖地の役割を理解する。	2~4		*	*	
41588	日本近世政治史特殊講義A	日本近世国家について多様な視点から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4	*		*	
41589	日本近世政治史特殊講義B	日本近世国家について多様な視点から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4		*	*	
41570	日本近世社会史特殊講義A	日本近世社会について多様な視点から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4	*		*	
41571	日本近世社会史特殊講義B	日本近世社会について多様な視点から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4		*	*	
41572	日本近代都市史特殊講義A	日本の近代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4	*		*	
41573	日本近代都市史特殊講義B	日本の近代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4		*	*	
41574	日本現代都市史特殊講義A	日本の現代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4	*		*	
41575	日本現代都市史特殊講義B	日本の現代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4		*	*	
41584	日本史特殊講義A1	日本古代・中世の国家・社会・文化についての理解を深める。	2~4				*
41585	日本史特殊講義A2	日本古代・中世の国家・社会・文化についての理解を深める。	2~4				*
41586	日本史特殊講義B1	日本近世・近代の国家・社会・文化についての理解を深める。	2~4				*
41587	日本史特殊講義B2	日本近世・近代の国家・社会・文化についての理解を深める。	2~4				*
41588	日本古代政治史演習A1	古代の政治史に関する史料(六国史中心)を解説する。	2~4				*
41589	日本古代政治史演習A2	古代の政治史に関する史料(六国史中心)を解説する。	2~4				*
41590	日本古代政治史演習B1	古代の政治史に関する史料(古記録中心)を解説する。	2~4				*
41591	日本古代政治史演習B2	古代の政治史に関する史料(古記録中心)を解説する。	2~4				*
41592	日本古代史料演習A1	奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を解説する。	2~4	*	*		*
41593	日本古代史料演習A2	奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を解説する。	2~4	*	*		*
41594	日本古代史料演習B1	奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を解説する。	2~4		*	*	*

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	歴史学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性や社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≧KUGS1.5に対応)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できることと、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(≧KUGS1.2.5に対応)</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≧KUGS3に対応)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有し、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≧KUGS4に対応)</p>	<p>歴史学プログラムでは、人間の歴史・文化・思想・言語・思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、履修モデルを参考としつつ、それぞれの志望に応じ選択した分野・地域を中心とする歴史学的専門知識を有し、さらに人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつプログラムのディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】 DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。 1. 学士課程4年間を通して、KUGSに対応したGS科目と導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基礎となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択すること。外語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≧DP1) 2. 1年次より人間社会学域(GS科目)と人文学部専修科目(履修制)を履修し、教養では大学・学問論、ジェンダー論、文化概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者は人文学の基礎研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≧DP1.2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≧DP4) 4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向性のある授業を進めることで、専門的知識の習得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養成している。(≧DP3.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通して卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の根拠に加えて批評・異論に耳を向けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 【プログラムのOP】 プログラム必修科目である1年次の歴史学入門、および履修が推奨される人文学部基礎科目(グローバルヒストリー、歴史学と現在1・2)の修得を通じて、歴史学全般の基礎知識や方法論を学ぶ。そして各自の選択する履修モデルを参考に、2年次、または3年次から実習科目を履修し、歴史研究における論文の読み方、史料の分析と読解方法を実践的に学習する。このほか、履修モデルでの推奨、および学生各自の関心に応じて基礎講義、発展講義、演習科目を選択し、専門的知識を習得する。</p>	<p>過去の人類の営みをもとに、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、必要に応じて報告することができ、抽出できる。</p> <p>設定した課題に対して、史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間・空間の異なる世界を歴史的対象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブの論考にまとめることができる。</p> <p>学問分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に開かれた複眼的な見方を養育する。</p>

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学年	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
41695	日本古代史演習B2	奈良時代史の基本史料である「続日本紀」を解説する。	2~4			*	*
41696	奈良平安時代史演習A1	貴族社会に関する史料(古記録など)を解説する。	2~4	*	*		
41697	奈良平安時代史演習A2	貴族社会に関する史料(古記録など)を解説する。	2~4	*	*		
41698	奈良平安時代史演習B1	貴族社会に関する史料(古記録など)を解説する。	2~4			*	*
41699	奈良平安時代史演習B2	貴族社会に関する史料(古記録など)を解説する。	2~4			*	*
41750	日本中世地域史演習A1	中世の共同体と寺社の関係を示す史料を解説する。	2~4	*	*		
41751	日本中世地域史演習A2	中世の共同体と寺社の関係を示す史料を解説する。	2~4	*	*		
41752	日本中世地域史演習B1	中世村落と寺社の関係を示す史料を解説する。	2~4			*	*
41753	日本中世地域史演習B2	中世村落と寺社の関係を示す史料を解説する。	2~4			*	*
41754	日本中世寺院史演習A1	中世前期の社会と寺社の関係史料を解説する。	2~4	*	*		
41755	日本中世寺院史演習A2	中世前期の社会と寺社の関係史料を解説する。	2~4	*	*		
41756	日本中世寺院史演習B1	中世後期の社会と寺社の関係史料を解説する。	2~4			*	*
41757	日本中世寺院史演習B2	中世後期の社会と寺社の関係史料を解説する。	2~4			*	*
41758	室町戦国時代史演習A1	守護大名内氏及びその領内村落の史料を解説する。	2~4	*	*		
41759	室町戦国時代史演習A2	守護大名内氏及びその領内村落の史料を解説する。	2~4	*	*		
41760	室町戦国時代史演習B1	戦国期惣村の史料を解説する。	2~4			*	*
41761	室町戦国時代史演習B2	戦国期惣村の史料を解説する。	2~4			*	*
41762	日本近世前期史演習A1	近世史の重要論文と近世前期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*		
41763	日本近世前期史演習A2	近世史の重要論文と近世前期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*		
41764	日本近世前期史演習B1	近世前期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(自録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*
41765	日本近世前期史演習B2	近世前期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(自録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*
41766	日本近世中期史演習A1	近世史の重要論文と近世中期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*		
41767	日本近世中期史演習A2	近世史の重要論文と近世中期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*		
41768	日本近世中期史演習B1	近世中期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(自録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*
41769	日本近世中期史演習B2	近世中期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(自録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*
41770	日本近世後期史演習A1	近世史の重要論文と近世後期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*		
41771	日本近世後期史演習A2	近世史の重要論文と近世後期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*		
41772	日本近世後期史演習B1	近世後期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(自録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*
41773	日本近世後期史演習B2	近世後期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(自録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*
41774	日本近代史演習A1	近代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。	2~4	*	*		
41775	日本近代史演習A2	近代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。	2~4	*	*		
41776	日本近代史演習B1	近代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。聞き取り調査に寄り添うこともある。	2~4			*	*
41777	日本近代史演習B2	近代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。聞き取り調査に寄り添うこともある。	2~4			*	*

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	歴史学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解に由来する独自の調査の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(≒KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≒KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≒KUGS4に対応) 	<p>歴史学プログラムでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、履修モデルを参考としつつ、それぞれの志望に応じ選択した分野・地域を中心とする歴史学的専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】 DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学士課程4年間を通して、KUGSに対応したGS科目を体系的に履修して、学士課程教育の基礎となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択すること。外語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≒DP1) 2. 1年次より人間社会学域(GS科目)と人文学基礎科目(修習)し、前期で社会学・人間論、ジェンダー論、文化概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後期では人文学の基礎知識をそれぞれ幅広く修習し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≒DP1.2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≒DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実験科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を促すとともに双方向的な授業を進めることで、専門知識の習得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≒DP3.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通して卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の重大成果となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。専門教育における卒業論文を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。専門教育における卒業論文を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。自己の所収の原明に加えて批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 <p>プログラム必修科目である1年次の歴史学入門、および履修が推奨される人文学基礎科目(グローバルヒストリー、歴史学と現在1・2)の修得を通じて、歴史学全般の基礎知識や方法を学ぶ。そして各自の選択する履修モデルを参考に、2年次、または3年次から実習科目を履修し、歴史研究における論文の読み方、史料の分析と読解方法を実践的に学習する。このほか、履修モデルでの推奨、および学生各自の関心に応じて基礎講義、発展講義、演習科目を選択し、専門知識を習得する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、得るべき教訓を抽出できる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知識を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多くの文獻にあり、多様な学識を相互に検証しつつ考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、幅広いベース・ペクトルの論考にまよることができ、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>時間・空間の異なる世界を歴史的対象との対話を繰り返すことで、深い洞察力を養うとともに、人文学に関する複眼的な見方を養うことができる。</p>

プログラムのカリキュラム								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>履修の学習科目</th> <th>学年</th> <th>Q1</th> <th>Q2</th> <th>Q3</th> <th>Q4</th> </tr> </thead> </table>	科目番号	科目名	履修の学習科目	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
科目番号	科目名	履修の学習科目	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	

科目番号	科目名	履修の学習科目	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
41604	中国明清時代史特講	・当該時代の歴史についての基本的な事項を理解する。 ・研究整理の方法を理解し、活用する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4		*		
41606	東アジア政治制度史特講	・主として中国近代における政治・制度上の論点について、基本的なことがらを理解する。 ・研究整理について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。 ・史料批判について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。	2,3,4			*	
41607	東アジア社会経済史特講	・明清時代を中心とした、東アジアにおける社会経済の状況を理解する。 ・東アジアの社会経済史に関する基本的知識を習得する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4		*		
41634	中国漢代史演習A1	中国漢時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4	*		○	◎
41635	中国漢代史演習A2	中国漢時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4		*	○	◎
41636	中国唐宋時代史演習A1	中国の唐代～元代の間に著された史料の講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4			○	◎
41637	中国唐宋時代史演習A2	中国の唐代～元代の間に著された史料の講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4			○	◎
41638	中国明清時代史演習A1	中国明清時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4		*	○	◎
41639	中国明清時代史演習A2	中国明清時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4		*	○	◎
41640	中国漢代史演習B1	中国漢時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4			○	◎
41641	中国漢代史演習B2	中国漢時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4		*	○	◎
41642	中国唐宋時代史演習B1	中国の唐代～元代の間に著された史料の講義を通じ、 ・漢文読解・中国語読解の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4	*		○	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	歴史学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に基づく豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できることと、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文脈、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応) 	<p>歴史学プログラムでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、履修モデルを参考としつつ、それぞれの志望に応じ選択した分野・地域を中心とする歴史学的専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】 DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学士課程4年間で、KUGSに対応したGS科目を体系的に履修して、学士課程教育の基礎となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1) 2. 1年次より人間社会学域(GS科目)と人文学基礎科目を履修し、前期で大学・学問論、ジェンダー論、文化概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文学の基礎研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学習し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP1.2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実地系科目とに分けられるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を促すことと双方向的な授業を進めること、専門知識の習得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP3.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の根拠に加えて批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 <p>【プログラムのOP】 プログラム必修科目である1年次の歴史学入門、および履修が推奨される人文学類基礎科目(グローバルヒストリー、歴史学と現在1・2)の修得を通じて、歴史学全般の基礎知識や方法を学ぶ。そして各自の選択する履修モデルを参考に、2年次、または3年次から実習科目を履修し、歴史研究における論文の読み方、史料の分析と読解方法を実践的に学習する。このほか、履修モデルでの推奨、および学生各自の関心に応じて基礎講義、発展講義、演習科目を選択し、専門知識を習得する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多くの文脈にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることによって、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間・空間の異なる世界を歴史的対象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブの論考にまとめることができる。</p> <p>学問分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に関わる複眼的な見方を養える。</p>

プログラムのカリキュラム								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>履修の学年</th> <th>学</th> <th>Q1</th> <th>Q2</th> <th>Q3</th> <th>Q4</th> </tr> </thead> </table>	科目番号	科目名	履修の学年	学	Q1	Q2	Q3	Q4
科目番号	科目名	履修の学年	学	Q1	Q2	Q3	Q4	

42788	東洋史学研究法演習A	自身の興味・問題意識の具体化と取り組みを行う。自身の研究テーマを深化させる。	3.4			*		○	○	○	◎	△	△
42789	東洋史学研究法演習B	自身の興味・問題意識の具体化と取り組みを行う。自身の研究テーマを深化させる。	3.4			*		○	○	○	◎	△	△
41656	東洋史学基礎実習A	東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2.3.4	*					◎	○	○		
41657	東洋史学基礎実習B	東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2.3.4		*				◎	○	○		
41658	東洋史学演習A	東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2.3.4			*			◎	○	○		
41659	東洋史学演習B	東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2.3.4			*			◎	○	○		
42790	地中海世界史概説	古代・中世における地中海沿岸世界の発展の全体像を把握する。	1.2.3.4	*				◎				◎	
41745	西洋中世史概説A	ヨーロッパ中世史の全体像および個々の重要な事柄とその基盤をなす骨組みについて理解を深める。	1.2.3.4	*				◎				◎	◎
41746	西洋中世史概説B	Aに引き続き、ヨーロッパ中世史の全体像および個々の重要な事柄とその基盤をなす骨組みについて理解を深める。	1.2.3.4		*			◎				◎	◎
41747	西洋近代史概説A	西洋近代史研究のあゆみを理解する。	1.2.3.4			*		◎				◎	◎
41748	西洋近代史概説B	西洋近代史研究のあゆみを理解する。	1.2.3.4			*		◎				◎	◎
42791	地中海世界政治史概説	古代・中世における地中海世界、とりわけオスマン帝国周辺地域の政治過程上の問題を具体的に考察し、そのメカニズムを理解する。	2.3.4	*				○				○	○
42792	地中海世界社会史概説	古代・中世における地中海世界、とりわけオスマン帝国周辺地域の社会史上の問題を具体的に考察し、そのメカニズムを理解する。	2.3.4	*				○				○	○
42793	地中海世界国際関係史概説	古代・中世における地中海世界、とりわけオスマン帝国周辺地域の国際関係上の問題を具体的に考察し、そのメカニズムを理解する。	2.3.4	*				○				○	○
41755	西洋中世都市史概説A	ヨーロッパ中世都市史の全体像および個々の論点について理解を深め、中世都市を研究する上での留意点も学びとる。	2.3.4	*				○				○	○
41756	西洋中世都市史概説B	Aに引き続き、ヨーロッパ中世都市史の全体像および個々の論点について理解を深め、中世都市を研究する上での留意点も学びとる。	2.3.4		*			○				○	○
41757	西洋中世国制史概説A	ヨーロッパ中世の諸国家の国制に關して、歴史的背景をふまえてその構造を把握し、比較の眼を養う。本講義で扱うイスイスの特質についても理解を深める。	2.3.4	*				○				○	○
41758	西洋中世国制史概説B	Aに引き続き、ヨーロッパ中世の諸国家の国制に關して、歴史的背景をふまえてその構造を把握し、比較の眼を養う。本講義で扱うイスイスの特質についても理解を深める。	2.3.4		*			○				○	○
41759	西洋中世社会史概説A	ヨーロッパ中世社会に関するさまざまな問題に關して、学際的な考察の眼を養う。	2.3.4	*				○				○	○
41760	西洋中世社会史概説B	Aに引き続き、ヨーロッパ中世社会に関するさまざまな問題に關して、学際的な考察の眼を養う。	2.3.4		*			○				○	○
41765	西洋近代文化史概説A	イギリス帝国を中心として、西洋近代の文化現象全般について理解を深める。	2.3.4	*				○				○	○
41766	西洋近代文化史概説B	南アフリカを中心として、西洋近代の文化現象全般について理解を深める。	2.3.4	*				○				○	○
42794	地中海世界政治史演習	古代・中世の地中海政治史に関する一次史料の英訳を精読しながら、そこからいかなる情報が得られるかを検証する。	2.3.4	*				△	△	△		△	△
41795	地中海世界社会史演習	古代・中世の地中海社会史に関する一次史料の英訳を精読しながら、そこからいかなる情報が得られるかを検証する。	2.3.4	*				△	△	△		△	△
41796	地中海世界国際関係史演習	古代・中世の地中海国際関係史に関する一次史料の英訳を精読しながら、そこからいかなる情報が得られるかを検証する。	2.3.4	*				△	△	△		△	△
41773	西洋中世都市史演習A	外国語文書を精読しながら、ヨーロッパ中世都市に關して考察を進める上での留意点を把握する。	2.3.4	*				△	△	△		△	△
41774	西洋中世都市史演習B	Aの課題をさらに深める。	2.3.4		*			△	△	△		△	△
41775	西洋中世国制史演習A	外国語文書を精読しながら、ヨーロッパ中世の国制に關して考察を進める上での留意点を把握する。	2.3.4	*				△	△	△		△	△
41776	西洋中世国制史演習B	Aの課題をさらに深める。	2.3.4		*			△	△	△		△	△
41777	西洋中世社会史演習A	外国語文書を精読しながら、ヨーロッパ中世の社会史に関する問題を把握する。	2.3.4	*				△	△	△		△	△

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	歴史学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学習内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応) 	<p>歴史学プログラムでは、人間の歴史・文化・思想・言語・思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、履修モデルを参考としつつ、それぞれの志望に応じ選択した分野・地域を中心とする歴史学的専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】 DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1) 2. 1年次より人間社会学域(GS科目)と人文学部基盤科目を履修し、前期で社会学・学問論、ジェンダー論、文化概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文学の基本研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学習し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP1.2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえて2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実験科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的授業を定めることで、専門知識の習得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP3.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の根拠に加えて批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 【プログラムのOP】 プログラム必修科目である1年次の歴史学入門、および履修が推奨される人文学部基盤科目(グローバルヒストリー、歴史学と現在1・2)の修得を通じて、歴史学全般の基礎知識や方法論を学ぶ。そして各自の選択する履修モデルを参考に、2年次、または3年次から実習科目を履修し、歴史研究における論文の読み方、史料の分析と読解方法を実践的に学習する。このほか、履修モデルでの推奨、および学生各自の関心に応じて基礎講義、発展講義、演習科目を選択し、専門知識を習得する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、得るべき能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、幅広いバースペクティブの論考にまよることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を横断し、深い洞察力を養うことで、独自の考察や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>学問的分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に關わる複眼的な見方を養える。</p>

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学習科目学生	学年	Q1	Q2	Q3	Q4												
11067	ジェンダーと社会A	現代社会におけるジェンダー概念の意義と関連する諸課題について学ぶ。 ジェンダーの視点から諸課題の構造や課題解決のアプローチについて考察できるようにする。	1~4			*													○
11068	ジェンダーと社会B	多様な性と関連する諸課題について学ぶ。 「ダイバーシティとインクルージョン(社会的包摂)」の視点から分析・課題解決の方法について理解する。	1~4				*												○
42621	知覚・認知心理学A	感覚知覚に関する諸現象や基礎知識を学び、その仕組みと心理過程における役割を理解する。	2-4																○
42622	知覚・認知心理学B	認知に関する諸現象や基礎知識を学び、認知過程と心理過程の特性を理解する。	2-4																○
42623	学習・言語心理学A	学習心理学の基本的な現象、研究方法、および説明理論について基礎知識を習得し、現実場面に応用できるようにする。	2-4																○
42624	学習・言語心理学B	学習心理学の複眼的な現象と説明理論について理解するとともに、言語心理学の基本的な現象、研究方法、および言語障害について基礎知識を習得する。	2-4																○
42625	感情・人格心理学A	人格心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようにする。	2-4																○
42626	感情・人格心理学B	感情心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようにする。	2-4																○
41475	古代文明論	世界各地の古代文明の成立・発展・衰退の過程について、考古資料、建築資料、図像資料、文学資料などを駆使して研究する方法を学ぶ。	2年		*			◎											○
11069	北陸の考古学	北陸地方の主要な史跡について学び、考古学的に北陸地方の歴史を復元できるようにする。	2年					○											○
11070	宗教芸術論	おもに、キリスト教・仏教の芸術について、それぞれの基本的な知識と、両者の差異、それらを生み出す文化的・社会的背景に関する知識を修得する。	2年		*														○
11071	イメージを読み解く	人類がこれまでに生み出したさまざまなイメージを手がかりに、人間の持つ普遍性や、地域や時代に応じた固有の文化のあり方を修得する。	2年	*															○
11072	グローバルヒストリー	一面史の枠を超えた、グローバルな視点で歴史を考察する力を養う。	2		*			○											○
11078	歴史学と現在1	戦後日本(戦後復興から高度経済成長期まで)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学が存在意義を理解する。	1					◎											○
11079	歴史学と現在2	戦後日本(高度経済成長期以降)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学が存在意義を理解する。	1					◎											○
41975	日本語学講義1	日本語の言語構造について、個別の問題の探求を通じて、その基本的特徴を理解する。 言語の現象についての基本的な理解を身に付ける。	2,3,4		(*)	(*)	*												(*)
11073	日本の物語と語り物	日本文学史を貫通する問題や同時代の広がりの中でジャンルを横断して看取される共通点を取り上げて追跡・追求することができる。	2,3,4		(*)	(*)	*												(*)
11074	日本文学の近代	近代文学と社会の関わりに注意を払い、論理的読解ができる。畜業の権制に注意を払い、注釈的読解ができる。日本近代の問題について知見を深めることができる。	2,3,4		*	(*)	(*)												(*)
11075	日本文学とメディア	近代文学と社会の関わりに注意を払い、論理的読解ができる。畜業の権制に注意を払い、注釈的読解ができる。社会の問題について知見を深めることができる。	2,3,4				*												*
11076	中国の言語文化A	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2				*												○
11077	中国の言語文化B	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2						*										○
21401	言語研究入門	言語研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4		*														○
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4			*													○
21416	比較文学入門	比較文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4				*												○
21417	言語認知科学入門	認知科学における言語の位置付けを理解する。 認知科学を学ぶ上で基礎となる心理学の知識を学ぶ。	2~4				*												○

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。